土壌処理型除草剤

農林水産省登録
第７６９３号

アイ.ピー.シー

700IPC「石原」

冬の畑作除草剤

特長

- 冬畑に発生が多いスズメノテッポウやスズメノカタビラ、ハコベなどの発生を抑えます。
- 雑草の発芽前から発生始期までの土壌処理で高い効果を示します。
- 秋から春にかけて、気温が 20℃以下の時期に高い効果を示します。

土壌処理型除草剤 **クロロIPC「石原」**（アイ.ピー.シー）

農林水産省登録　第 7693 号
有効成分：IPC・・・45.8%
人畜毒性：普通物（毒劇物に該当しないものを指していう通称）

適用雑草と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	10 アール当り使用量		使用方法	本剤および IPC を含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量		
たまねぎ	一年生雑草	定植活着後または中耕後 但し収穫 30 日前まで	200 ～ 300㎖	70 ～ 100ℓ	全面土壌散布	2 回以内
麦類		は種直後または 2 ～ 3 葉期	100 ～ 150㎖			1 回
てんさい、あずき アスパラガス（苗床）		は種直後	200 ～ 300㎖			
アスパラガス（定植畑）		培土後雑草発生前 但し収穫 30 日前まで	250 ～ 300㎖			
ほうれんそう		は種直後	100 ～ 200㎖			
いちご		定植活着後 但し定植 7 日後まで	150 ～ 200㎖		株間土壌散布	
いんげんまめ		は種直後	500 ～ 900㎖		全面土壌散布	
		は種後 5 ～ 15 日（発芽前）	500 ～ 600㎖			
にんじん		は種直後	300 ～ 600㎖			
ごぼう			200 ～ 500㎖			
キャベツ		定植後　但し収穫 60 日前まで	150 ～ 300㎖		株間土壌散布	
だいず		は種後発芽前	200 ～ 300㎖		全面土壌散布	
レタス 非結球レタス		定植活着後 但し収穫 60 日前まで	300 ～ 500㎖		株間土壌散布	
そらまめ		中耕培土後 但し収穫 90 日前まで	200㎖		全面土壌散布	
未成熟そらまめ		中耕培土後 但し収穫 60 日前まで				
チューリップ		植付後	300㎖		株間土壌散布	
日本芝 （こうらいしば、 ひめこうらいしば）		雑草発生前～発生始期 （秋期～春期）	400 ～ 600㎖	200 ～ 300ℓ	全面散布	2 回以内

効果・薬害等の注意事項

一般的注意事項（共通）

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 高温時には除草効果が十分得られないので、気温が 20°C以下の時期に使用してください。
- 成長した雑草に対してはほとんど効果が認められないので、は種または植付直後か、中耕施肥直後などの雑草発芽前後、または稚幼期に土壌散布してください。
- 洪積土壌では薬害が出にくいですが、沖積土壌では作物に影響を与えやすいので、散布にあたっては土質に十分注意してください。なお、砂質土壌では使用をさけてください。
- 散布後、中耕・培土・土入れなどにより土壌上層を移すと、雑草の種子が下部より出て発芽し、効果が減ずることがあるので注意してください。
- 過乾の場合は効果が顕著でなく、逆に過湿の場合は薬害が生じやすいので、できるだけ雨天をさけ散布してください。雨天の場合は、降雨後、土壌水分が適湿の状態となってから散布してください。散布後、はげしい降雨が予想される場合は、薬害が生じるので使用をさけてください。
- 薬害を回避するため、必ず 2 ～ 3cm の厚さに覆土を施し、よく砕土・鎮圧してから散布してください。堆肥のみの覆土の場合は使用しないでください。
- 著しく低温の場合には、製品中に一部原体が結晶析出することがありますが、その場合でも溶かせば効果は変わりませんので、ビンのままぬるま湯に浸して十分溶かした後、よく振ってから使用してください。
- 広葉作物の除草に使用する場合は、薬液が作物の茎葉にかからないように圧力を下げて散布してください。
- 自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意してください。
- 使用した器具類は、使用後できるだけ早く水または石けん水で洗っておき、他の用途に使用する場合、薬害の原因にならないように注意してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にかからないようにしてください。
- 使用にあたっては土壌条件、気象状況ならびに発生する雑草の相違から効果および作物への影響も異なるので、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

作物別注意事項

● 麦に使用する場合
- 催芽まきの場合は、散布しないでください。
- 晩播で越冬まで 5 葉に達する見込みのない場合は、散布しないでください。

● レタスに使用する場合
- 特に処理時の温度に影響されるので、適用対象地帯は東日本ならびに山間高冷地です。

● ごぼうに使用する場合
- べたがけおよびマルチ栽培では薬害が生じるので使用しないでください。
- 低温時に高薬量で使用すると薬害を生じるので、春播き栽培では薬量 200 ～ 300㎖/10a、晩春播き栽培では薬量 200 ～ 400㎖/10a で使用してください。

● にんじんに使用する場合
- アカザ・キク科雑草の優占する圃場では効果が劣るので、有効な薬剤との組み合わせで防除してください。
- 低温時に高薬量で使用すると薬害を生じるので、冬播き、春播きおよび晩春播き栽培では薬量 300㎖/10a で使用してください。

安全使用上の注意事項

- 誤飲などのないよう注意してください。
- 眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。使用後は洗眼してください。
- 皮膚に対して刺激性があるので、散布の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣を着用し、皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合は直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 公園等で使用する場合は、散布中および散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- 危険物第四類第二石油類に属するので、火気には十分注意してください。

※本内容は 2022 年 10 月時点での知見に基づいて作成しています。

● 使用前にラベルをよく読んでください。● ラベルの記載以外には使用しないでください。● 小児の手の届く所には置かないでください。● 空容器は圃場などに放置せず、適切に処理してください。

ISK 石原バイオサイエンス株式会社
〒102-0071　東京都千代田区富士見2丁目10番2号

ホームページの
製品情報へ

2210IBJ